**ＭＩＳＳＩＯＮ**

**21世紀ティーチャーズプログラムで**

**学んだことをベースに**

**これまでやったことのない授業に挑戦せよ！**

**条件**

１.　生徒の人生にとって有意義で本質的な変化をもたらすこと

２.　教師としての願い、意図、仕掛や工夫、期待効果が明確であること

３.　自分自身がワクワクすること

実践共有会での発表の形式

＜日時＞　３月26日（日）

＜発表時間＞　１人５分、質疑応答５分

＜発表方法＞　　自由（パワーポイント、ポスターセッション、動画　等）

＜提出物＞

・授業案

（日付・クラスの概要・教科・単元・生徒に届けたい変化・どのようにその変化を生み出すか・

具体的な内容・２１世紀ティーチャーズプログラムで学んだ何を、どのように活かすか）

・振り返り

　（生徒の変化、授業設計からの学び、授業実施からの学び）

**■ 授業案**

|  |  |
| --- | --- |
| ＜授業実施日＞平成２９年１月１１日（水） | ＜実施場所(普通教室　等)＞図書室 |
| ＜教科＞職員研修会 | ＜単元＞個人研修発表会 |
| ＜クラス・生徒（教師）の概要、普段の様子＞本校は，生徒数４２０名教員数３５人の中規模中学校である。教員は、年齢構成は２０代と５０代が多い。市内のほかの中学校に比べ，研修の質が高く，広く多くのことを求められるため、教員は共通認識を持つ必要がある。しかし、教師たち自らの意見で動くというよりは、校長のリーダシップのもと動くことが多く，多忙なため、実際に必要な会議は持つものの，お互いの考えや想いを共有することが少なくなっているのではと感じることもある。 |

|  |
| --- |
| ＜生徒（教師）に届けたい変化＞　まず，教員が“社会を作り上げる”社会人としての，もともと持っている「夢」「教員になったきっかけ」「将来のビジョン」に気が付くことができる。また、その考えを普段から共有することで、相互の信頼関係がおこり，職場が「意見が伝えやすい。」「自分が望む活動が共同で実現しやすい。」という教育の場ができあがる。教員の自己肯定感の向上は，必ず生徒にも伝わり，教師，生徒ともに「学ぶ場」「自分自身をつくりあげる人間形成の場」となる。 |
| ＜どのようにその変化を生み出すか＞　最初にファシリテーター役の私が，なぜ「教員同士が自分を振り返り，夢を語る場」を創造したいのか、その理由を話した。私が教員になったきっかけ，生徒は先生の「夢」にも興味を持っていること。教師としてのこれからの私の「夢」，TIに参加して学んだ「２０３０年」の社会や教育，私たちの「今」の役割などを話した。その後、５グループに分けて，「ゼロベースで考える理想の学校」のワークショップを行った。教員は社会の流れに疎い環境にあり，「これからの日本」はどのように考えられているのかをまず」「知る」ことで「今」の教育はどうあるべきか、自身の課題として考えることができると考えた。さらに，「理想の学校」などのワークショップを行うことで，普段考えていた想いを共有し「対話する場」「熟議する場」ができ，学ぶ場が生まれると考えた。 |
|  |
| ＜21世紀ティーチャーズプログラムで学んだことで授業に活かしたいこと＞　私自身の本来持っている夢を、このTIで気が付いた。また、紆余曲折はしてきたが、これまでも実はその夢に向かって進んできていたことにも気が付いた。時には“crazy”になりながら，忠実に夢に向かっていく，むしろそちらの方が幸福である（幸福の４因子）。こころの奥底にある「どう生きていきたいか。」という希望はそれぞれが必ず持っているものであり，そこの軸を持っていたら希望をもって進路選択をできるのではないかと進んで考え、教師として生徒の「心の底の望み」を引き出して生きたいと考えた。また、そのような授業にしていきたいと考えた。 |
| ＜どのように活かすか＞　まずは，私自身が自分の「夢」に忠実に向き合うこと。同僚である教師たちは，同じ志をもったメンバーであるということを認識し、尊重，信頼することを決めた。さらに，私がTIで学んだ日本社会の流れ，２０３０年までの教育のありかた，そのために教師に求められる力、を客観的に伝えるように努めた。また、私自身の気づきを共感が得られるように伝えるようにした。 |

**■ 授業プロセス**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 授業展開・時数 | 生徒の活動・学習 | 狙い・評価の観点 | 先生の役割・工夫・資料 |
| １５分 | 　ファシリテーターの話を，パワーポインターを見ながら聞く。これからの社会で起こるであろう出来事の一端と，教育の課題について知る。 | ・将来予想される日本社会の姿を知る。・教員には，これからの日本社会を造っていく重要な役割があることを認識する。・教員が，自己肯定感を高めていく。「希望」を持っている大人であることを認識する。 | ・ファシリテーターが，まず自分を自己開示していく。・TIで使用した資料を利用。・パワーポイント使用。情報が簡潔に理解できるようにする。・新しい価値観を持つためには，既存の価値観をも考え直す必要がある。ゼロベースで考えると伝える。 |
| ５分 | ジグゾーブレインセッション。1. あるけどいらない。
2. あるけど，要改善。
3. ないけど，いる。

小グループに分かれ，各自が思いつくまま上の①～③について，付箋に書いていく。 | ・各自が，普段から思っている疑問点を書き出す。思いついたことを，即書き出すことで，どんな考えも拾い出すことができる。・自分が持っている既存の価値観を一度見直してみる。 | ・どのような考えも躊躇なく書くように指示をする。・既存の教室，授業も含め，すべてゼロベースで考えてみる。・これらの作業で，本来持っている意識，無意識の自分の価値観に気が付くことができる。 |
| １０分 | ・書いた内容の理由を説明しながらグループのテーブル上の１枚の紙に貼っていく。 | ・書いた内容を説明することにより，普段の自分の考え，想いを伝えることができる。・普段同じ時間と場所を共有している同僚の想いや価値観を知ることでき，互いに尊重意識ができる。 | ・約束としてすべての価値観が認められる「All OK」とする。・意見が分散しすぎないよう，ある程度収束するようにする。 |
| １５分 | ・自分たちのグループで，価値観を共有しあい、「自分たちの理想の学校」をつくると考え，「自分たちの学校」の売りを３つあげる。・それらを，全員の前で発表をする。 | ・価値観を共有し，自分たちが望む学校の姿は何か，自分たちの学校に対する想い、生徒への想いを共有することができる。・教員同士が，本来は一つの理想に向かっている協働していく仲間であることを意識し信頼関係を築きあげるきっかけにする。 | ・自分たちの望みはなんでも叶えられる社会である。という設定にする。・発表は，学校説明会で売り込むつもりで「魅力ある学校」であることを強調する。 |

**■ 振り返り**

|  |
| --- |
| ＜生徒（教師）の変化＞　ワーク自体が、非常に和やかな雰囲気で行われた。それぞれが自分の考えを発表しているときに、共感している声や、笑い声，または意見を言う場面などが見られ，「仕事に対してお互いが認め合う安心感」を体感したのではないかと考えられる。ある教師からは，「自分は、もっとものを言う教師になっていいのだ。」と自分が本来持っていた望みに気が付いたという感想がでた。また、教師自身が日ごろの忙しさ，目の前の煩雑な出来事に対応しているだけであるということに気が付き，これからは「戦う学校」にするべきだ。という言葉で表現した教師もいた。表現方法は各自さまざまであるが、本来持っている、教師としての情熱や生徒たちへの想い，自分の人生の考え方など，共感することが多くあり，時間がなく共有することができなかったが本来しておくべきだった“大切なこと”をした、という安心感でできた。 |
|  |
| ＜授業設計からの学び・自身の変化＞　ちょうどこのころ、ある生徒に「先生は夢をよく聞くけど先生の夢は何だ？」と尋ねられた。生徒は「夢」を見ている大人に出会いたいのではないかと感じた。TIの活動を通して、私の夢が鮮明になった。それは、世の中の流れを知り日本の教育の最先端に接していること。多様性のある価値観や立場を持つ大人どうし協働で教育に関わっていくことである。自分の軸が定まると，目の前におきる現象，出会う人すべて自分の人生を鮮やかに彩をつけるものとして映り，充実した毎日になった。しかし，本来は身近な人とも夢を共有したい，一緒に学校をつくっている仲間と共有できたら学校はもっとよくなるのではないかと考えた。また、教師たちが，自分の役割は，これからの日本をつくっていくうえで非常に重要な使命があるということに気が付いたら，教員がさらに自己肯定感が強くなるのではないかと考えた。 |
|  |
| ＜授業実施からの学び・自身の変化＞　今回のワークでは、非常に独特なアイディアが出てきた。また、和やかな前向きな雰囲気の場が出来上がった。同じ学校で働いている教師たちは，ひとり一人がそれぞれの想いを持ち、それらはっ互いの「対話」によって引き出すことができることがわかった。また、それぞれの教師が本来持っていた希望や情熱に気が付き、共有することによって互いに信頼関係をより強固にすることができた。 |